



NEWS LETTER かながわ

2014 年度第 1 号 (通巻第 15 号)

(2014 年 6 月 神奈川支部発行)

連絡先 e-mail:jacdp-kanagawa@hotmail.co.jp

巻 頭 言

神奈川支部支部長 三隅 輝見子

夏至を迎え、樹木の緑が濃さを増す季節となりました。会員の皆様におかれましては、つつがなくお過ごしのことと、推察申し上げます。

神奈川支部は、今年度で設立 9 年目を迎えました。去る 4 月 27 日 (日) の総会では、新たに新役員 1 名 (災害支援担当) が承認され、今年度は総勢 16 名の役員体制で支部活動に取り組みます。支部活動は、“臨床発達心理士”の共通基盤となる専門性と技術の向上、会員間の相互交流、地域連携の推進を図ることを目的として、①研修活動、②災害支援対策、③広報活動の 3 本柱を中心に進めて参ります。具体的な活動計画につきましては、神奈川支部ホームページに総会資料等を掲載しておりますのでご覧ください。

さて、今年度に入り、心理職の国家資格化の動きがますます本格化しております。4 月 22 日 (火) に開催された自民党「心理職の国家資格化を推進する議員連盟」第 4 回総会で「公認心理師法案骨子」が承認されたのち、5 月 30 日 (木) の自民党合同部会で法案が了承されました。これを受けて、6 月 2 日朝 (午前 4 時 27 分) の NHK ニュースで「自民党が“公認心理師”法案を議員立法で今国会 (会期は 6 月 22 日まで) に提出することを目指す」とのニュースが流れ、6 月 18 日 (水) には、超党派の共同提案という形で衆議院に「公認心理師法案」が提出されました。結果は、審議時間の不足のため、秋の臨時国会に審議が持ち越されることになりました。法案の成立を登山に例えれば、現在は 8 合目といったところですが、これから“胸突き八丁”といわれるもっとも重要で苦しい時期に差し掛かります。今後一層、心理職の国家資格の意義を確認し、関係者に広く周知する活動を進めていきたいと思っております。

まずは、7 月 12 日 (土) 午後の中野サンプラザ (東京都中野区) で開催されます「公認心理師法案実現のための説明集会」をご案内します。支部会員の皆様もぜひご参加ください。国家資格化の動向は、“臨床発達心理士”の存在基盤に関わる重要な問題です。会員の皆さまも、ぜひこの動向に関心をお持ちいただき、活動にご理解とご協力の程、よろしくお願い申し上げます。



神奈川支部総会報告

2014年度の神奈川支部定期総会は、4月27日（日）14：00～14：45にユニコムプラザさがみはらにおいて開催されました。当日出席の56名に加え、49名分の委任状により、会員数221名の三分の一を超え、総会成立となりました。

はじめに、三隅支部長からのご挨拶がありました。国家資格化の動きについてはホームページをチェックして欲しいとのこと、また、今後は会員情報がWeb管理になること、さらに、支部会計が士会と一本化されたので、予算についても士会で決定し支部には報告という形になることについて、説明がありました。

総会では、2013年度の活動報告と会計報告・会計監査報告があり、承認されました。支部企画の研修がこれまでの半日から一日の研修になったことや、災害支援対策について支部のガイドラインを作成の準備を始めたことが報告されました。

そして、支部規約の会計に関わる部分の改訂がありました。会計年度や会費についての項目が削除されるとともに、予算の「承認」ではなく「報告」になり、会計監査も置かなくなります。

それをもとに、2014年活動計画案が提案され、承認されました。今年度も一日の研修を行っていきます。また、災害支援マニュアル神奈川支部版を作成します。

さらに、予算案については、支部規約の改訂に伴い、報告がされました。

総会の成立には会員の三分の一以上の出席と委任状提出が必要になります。今回も、午前の研修と午後の研修の間に総会が開催され、多くの方に総会にもご出席いただくことができました。また、午前の研修のみに参加された方にも委任状をご提出いただくことができました。今後ともどうぞご協力をお願いいたします。

（文責：吉田麻衣）

神奈川支部総会の様子



神奈川支部研修会報告



2014年4月27日（日）に、第1回資格更新研修会を今回も bono 相模大野で実施しました。

<午前部>

講演会では、以下のテーマで講師の先生をお招きし、お話をうかがいました。

講演会

テーマ：高次脳機能障害—心理士として知っておくべきこと—

講師：山口 加代子先生（横浜市総合リハビリテーションセンター）

「高次脳機能障害—心理士として知っておくべきこと—」として、心理士として高次脳機能障害のアセスメントや支援に携わっておられる、横浜市総合リハビリテーションセンターの山口加代子先生にお話をうかがいました。講演では、高次脳機能障害についての基礎知識に始まり、小児期の高次脳機能障害や発達障害との関連まで含めた大変有意義な研修会でした。

高次脳機能障害とは、事故や疫病などで脳が損傷を受けることによって後天的に発現する認知機能や行動の障害を指します。脳損傷の部位や程度により症状の出方がさまざまであること・遂行機能の障害により当事者が自身の変化に気づきにくいこと・後天的な障害であることでの家族のストレスも大きいことなど、高次脳機能障害に特有の支援の難しさも多いとのこと。また、社会参加・機能回復の基盤としては適切な心理教育や情緒の安定が不可欠ですが、現状としては高次脳機能障害の方に対する支援の仕組みは十分には整っておらず、支援に携わる心理士の配置も圧倒的に少ないとのことでした。

病気だけでなく、虐待や事故などのリスクも考え合わせると、高次脳機能障害に関する知識は乳児期から老年期までどの年代の支援に携わる心理士にも必要な知識ものです。また、高次脳機能障害の症例を学ぶことが、発達障害児・者も含めたあらゆる行動のメカニズムの理解や対応を考える上でも役立つと感じました。広い視野での学びが日々の臨床につながることを、あらためて気づかされた研修会でした。

（文責：渡辺春奈）

研修会の様子



山口 加代子先生



<午後の部>

分科会形式で、5つのテーマ別に実践報告をもとにした意見交換を行いました。

分科会 1：「乳児院の現状と課題」

報告者：高橋伸枝（乳児院 デュミナス）

この分科会では、乳児院に勤務して8年目という高橋伸枝氏から乳児院に配置されている心理職の役割や求められる専門性、乳児院そのものの歴史と現状について話題提供をしていただきました。配置が義務化されたのは2011年で、全国に102名しかいないという心理職の現状には驚きました。虐待や保護者の精神疾患等深刻な問題に絶えず向き合うという職場の特徴がありますが、生活心理臨床を担当するジェネラリストとしての専門性が求められているのは福祉施設に共通しているとも感じました。参加者からは、乳児期から学童期まで縦の支援がつながっていくシステム構築を視野に入れ、臨床発達心理士としてこの分野に関心を向けていこう、との前向きな意見が出されていました。

（文責：牛島智子）

分科会 2：「神奈川県立総合教育センターの教育相談業務について」

報告者：由谷るみ子（神奈川県立座間養護学校）

この分科会では、長く神奈川県立総合教育センター（以下、センター）で教育相談を担当されていた由谷るみ子氏に話題提供をいただきました。

センター内には主に教育相談を行う教育相談課と特別支援学校の支援を行う特別支援教育推進課があり、その中で主に相談機能についてお話いただきました。一つ目の機能である教育相談は、近年さまざまな相談を受けているとのことで、不登校や学業不振についての相談や特別支援教育の利用についての相談はもちろん、海外からの帰国や外国籍の場合の学習問題についての相談、子どもの障害の有無に関する相談など幅広い領域があり、市町村では対応しきれない内容も受けているそうです。二つめの機能としては、教育施策に関する調査・研究を行いつつ、ユニバーサルデザインの教育の推進（教育のユニバーサルデザイン化）、教員の人材育成（教育の質の向上）といったように教育を行う側を教育する機能も重要な業務の柱となっているとのことです。

近年センターでの比較的軽い相談の件数は減少しており、これは①相談機関が増えたこと、②就学支援が充実してきたこと、③校内の特別支援教育コーディネータの養成が進んできたこと、④通級指導教室が充実してきたこと、などが挙げられ、むしろ市町村での相談機能の充実と裏表であると考えられるそうです。

このように総合教育センターとして新たな役割が求められる中、現在文部科学省が推進している「インクルーシブ教育システム」の推進が目下の課題ということです。今後もセンターとして、県の教育行政の中核機関として国の施策を鑑みながら新しいモデル的な取り組みを行い、それをまた市町村へと引き継いでいくという機能を担っていくとのことです。

（文責：武部正明）

分科会 3：「女性の生涯発達における月経周期の発達過程-その心理・社会的問題と臨床発達心理学的支援-」

報告者：川瀬 良美（淑徳大学）

この分科会では、女性の発達、中でも月経について発達心理学の観点から長年研究されている、川瀬良美氏にお話しいただきました。研究によると、『女性には特有の発達段階があり、月経周期の発達過程から区分できる。各発達段階に付随する障害や疾患、心理・社会的問題があると考えられ、人間の生涯発達支援を考えるにおいても従来の男女同一モデルではなく、女性特有の発達過程という視点からの検討必要である』とのことでした。

参加者を含めた質疑・意見交換では、まずは女性自身がこれらの視点をもちより深く知ること、また少子化や雇用問題などの社会全体の問題を考える際にもこれらの視点を踏まえ、理解を示す社会体系を考えていく必要があるだろうという意見が共有されました。女性である私自身も初めて気づかされる視点であり、よい学びの機会になりました。

（文責：白馬智美）

分科会 4：「東日本大震災での支援報告とこれからの神奈川支部での災害支援の検討」

報告者：尾崎 浩子（横浜市総合リハビリテーションセンター）

この分科会では、①東日本大震災での臨床発達心理士による支援がどのように行われたのか②JDD ネット福島プロジェクトでの実践報告③災害支援から学んだこと④神奈川支部での震災支援を考える⑤参考資料等紹介の5点を柱に、実践報告の話題提供を受けながら、話し合いをしました。

分科会参加者の中には、震災直後に現地に出向いた経験のある方もいらっしゃり、活発な意見交換がなされました。支援を受けることにもエネルギーが必要であること、被災後の時の流れにより現地の支援ニーズも変化するのでそれに合わせた支援が重要であること等について、議論がありました。神奈川支部として、これらを生かしたマニュアル作りや研修・意見交換をすること等が確認されました。

（文責：橋爪 美津子）

分科会 5：「発達障害 幼児期から学齢期にかけての取り組み - アセスメントの難しさと支援方法の模索 - 」

報告者：中村 泉（横浜市戸塚地域療育センター ピーす東戸塚）

この分科会では、40名以上の方にご参加いただきました。まず、療育センターの概要や児童発達支援事業所でのグループ指導の概要についてお話がありました。そして、グループ指導で対応が困難であったケースについて、アセスメントの視点として「被注察感」「侵襲感」「自我境界の曖昧さ」といった「自我障害」とも言える、ASDの特徴だけでなく他の障害特徴を併せもっているのではないかというお話がありました。さらにその対応として、自我障害には「構造化」を強める部分と緩める部分が必要ではないかということ、園でよくやっているように見えても家庭で反動が出ている場合にはバランスをとることが必要なのではないかとのお話がありました。

ディスカッションでは、参加者から同じようなケースがいることやその対応についての意見が出され、活発な議論がなされました。

（文責：吉田麻衣）

神奈川県支部研修会についてのアンケート結果

参加人数：104人（神奈川支部 86人・他支部 18人）、アンケート回収率：66%

1. 午前の研修（講演会）内容について

「高次脳機能障害—心理士として知っておくべきこと—」

山口 加代子先生（横浜市総合リハビリテーションセンター）

参加者からは、知識の広がりにつながる、「臨床場面で役に立つ」との回答がほとんどでした。

<午前の研修内容へのご意見・ご感想>

- 高次脳機能障害の特徴や対応の基本について具体的事例を多く用いて説明して頂き、よく理解できた。
- 高次脳機能障害と発達障害の関連について整理して理解するよい機会になり、視野が広がった。
- 発達障害と重なる部分、脳機能障害単独で考えないといけない部分があることがよく分かった。反面、見極めが難しいとも感じた。
- 保護者、家族支援の必要性がよく分かり、参考になった。
- 同じテーマをシリーズでやって頂いてもよいと感じた。
- TV モニターが複数あり見やすかった。
- 席の近くの人との意見交換が有意義で講義の内容の理解が進んだ。

2. 午後の研修（分科会：テーマ別の実践報告と意見交換）について

参加された多くの方から「知識の広がり役に立つ」「臨床場面で役に立つ」と回答がありました。会の運営面についてのご意見は、次回以降に生かしていきたいと思えます。

<午後の研修内容へのご意見・ご感想>

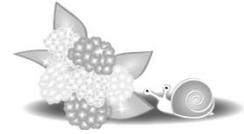
- 小規模のグループで意見交換でき、勉強になった。
- 自分の臨床場面と重なりよくイメージできた。
- 実践的な話で役に立った。
- 普段あまり知ることのできない施設の現状を知ることができてよかった。
- 映像も取り入れるとさらによいと感じた。
- 資料が足りず残念だった。（受付で希望を取っているの、人数分用意してほしい）

アンケート係より

今回も他支部の方含め、一日を通して多くの方の参加をして頂き、ありがとうございました。昨年度から取り入れた午後の分科会形式の意見交換の場ですが、今年も「有意義だった」という多くのご意見をいただきました。神奈川支部の恒例として、毎年1回目の研修会にこの形式を取り入れていきたいと思えます。ご協力ありがとうございました。

（文責：橋爪 美津子）

お知らせ



■ 2014 年度よりの新支部役員を紹介

矢島友子（災害支援担当）

コメント

今年度より災害支援担当として支部役員をさせていただくことになりました。

「そなえよ、つねに」と言うことで、皆様のご協力をお願いします。

知的・精神障害のある方に「待ってくれる時」があり、「待ってくれる人」がいる居場所「NPO 法人地域作業所まってる」に勤務しています。よろしくお願いいたします。

■神奈川支部 2014 年度第 2 回研修会の予定

○日時：2015 年 1 月 31 日（土）午前・午後

○会 場：bono 相模大野 ユニコムプラザさがみはら

○テーマ：「子どもの発達を促すためのペアレントプログラム - 神奈川県協働事業について -」

○講 師：尾崎 康子先生（相模女子大学）
トート・ガーボル先生（相模女子大学）

※ 詳細が決まりましたら神奈川支部ホームページ、郵送（神奈川支部会員のみ）にて、お知らせいたします。

日本臨床発達心理士会第 10 回全国大会が、下記の要領で開催されます。

会期	2014 年 9 月 13 日（土）～14 日（日）
会場	札幌コンベンションセンター（札幌市白石区東札幌 6 条 1 丁目 1-1）
大会準備委員会	日本臨床発達心理士会 北海道支部

※ 詳しくは、ホームページをご覧ください。（<http://www.jacdp.jp/congress/>）

<編集後記>

長雨の季節、暑さが日ごとに増してまいりました。いかがお過ごしですか。

今年度も広報担当より、年 2 回のニューズレターの発行、よりタイムリーな情報をお届けする神奈川支部ホームページ運営を通じ、「心理職の国家資格化に関する情報」や「研修会のお知らせ」等を、皆様にお伝えしていきます。どうぞよろしくお願いいたします。

本格的な夏をひかえ、いっそう自愛ください。（広報担当 武部正明・白馬智美）